

N U K U M O R I

ぬくもり

No.50
2018.1.31発行



No.42



No.22



No.26



No.28



No.32



No.38



No.40



No.8

基本理念

地域医療への貢献
「肌のぬくもりある医療」の実践

基本方針

- 一、救急医療充実のため、診療連携の強化に努めます。
- 一、高度医療の実施、チーム医療の推進に努めます。
- 一、患者様の立場にたった医療サービスの提供に努めます。
- 一、職員が働きやすく、誇りを持てる病院を目指します。

肌のぬくもりある医療



宇佐高田医師会病院

〒872-0102 大分県宇佐市大字南宇佐635
TEL.0978-37-2300(代) FAX.0978-37-2307
<http://www.utihp.jp/>

CONTENTS

新年のご挨拶	2
心臓リハビリテーションについて	3
ドクターのお話	4
リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分	6
糖尿病予防週間 栄養相談会	6
大分大学研修医の地域医療実習	7
宇佐高田医師会病院 平成29年のトピックス	7
外来担当医師一覧表	8

新年のご挨拶

理事長のご挨拶



宇佐高田医師会病院
理事長
西村 正幸

新年あけましておめでとうございます。新しき年、平成30年の年頭に際し、皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。私がこの広報誌めぐりに年頭のご挨拶を書くのは今年で2回目ですが、旧年中に宇佐高田医師会病院と地域成人病検診センターに賜りましたご厚情やご厚誼に厚く御礼申し上げますとともに、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年1年間を振り返りますと、特筆すべき出来事は、何と言つても、昨年11月2日に第1回宇佐高田医師会病院経営・施設整備構想検討委員会を開催できたことであります。宇佐高田医師会病院は、1981年に開設され、以来36年間にわたつて、開放型病院、第二次救急病院、地域医療支援病院、へき地医療支援病院、第二種感染症指定病院、大分DMAT指

定病院として地域医療に貢献してきました。また後に併設された宇佐高田地域成人病検診センターは、地域の人々の健康管理・疾病の早期発見に貢献していますが、近年施設の老朽化が目立ち、数年前から移転建て替えについて医師会内部で議論を重ねてまいりました。この委員会の開催をもつて、新医師会病院・宇佐高田地域成人病検診センター建設に向けて記念すべき第一歩を踏み出すことができました。

この地域で人々の暮らしを守るために、医師会病院と地域成人病検診センターはどのような機能を備え、どのような役割を果たしていかなければならないか、新医師会病院・地域成人病検診センターの将来構想について、外部の学識経験者、行政、地元の中核病院、議会、経済会、市民等の代表からなる委員会で議論が始まりました。今年はこの委員会で議論を深め、その後、建設委員会に引き継ぎ、構想を具体化する建設計画をまとめ、5年後を目途に新宇佐高田医師会病院・地域成人病検診センターを建設したいと思ひます。

今年も皆様の医師会病院・地域成人病検診センターのご利用、お引き立てと移転建て替えにご理解とご支援をいただきますようどうぞよろしくお願いいたします。

院長のご挨拶



宇佐高田医師会病院
院長
柏木 孝仁

新年あけましておめでとうございます。今年も宇佐高田医師会病院をよろしくお願い致します。

昨年は、トランプ大統領の就任に始まり北朝鮮のミサイル危機、欧州では多発テロとフランスのマクロン大統領の誕生、そして大量の難民流入が社会問題になりました。国内ではモリカケ問題に小池旋風、突然の解散総選挙による与党の大勝と、激動の一年でした。さて今年はどうなるのでしょうか。

今年は診療報酬と介護報酬の同時改定があり、医療関係者にとっても重要な年であります。国民の命に関わる政策ですのでここにもアベノミクスを期待したいところですが、増大する医療費を鑑みると中々厳しい結果になりそうです。

スポーツでは、平昌冬季オリンピック（本当にあるのか？）とロシアサッカー

ワールドカップ（本当にあるのか？）があり、日本選手の活躍を大いに期待したいところです。

相変わらず異常気象が続いており、アメリカでは大寒波が到来しオーストラリアでは熱波による被害が出ているようです。若い頃は南の島でゆっくり暮らしたいと夢見ていましたが、最近つくづく四季のある国に生まれて良かったと感じています。冬の寒い日には夏の太陽を恋い、夏の暑い日には雪の静寂を望み、春と秋には新緑と紅葉の中、快適な気候を謳歌し一年の経過を身体で感じる事ができる幸せです。勿論、異常気象は勘弁ですが。

最後に当院について述べたいと思います。当院は地域医療支援病院であり災害拠点病院であります。宇佐市医師会や豊後高田市医師会と協力しながら地域医療の発展と防災につとめてまいりました。今年も救急患者の受け入れや検査依頼に対して真摯に対応していきたいと思ひます。しかし築37年となり老朽化も目立ってきております。建て替えも検討中ですが、要望に応える為必要な所は改築していく予定です。その際は皆様にご迷惑をお掛けする事があるかもしれませんがご容赦の程お願い致します。

今年も皆さまにとつて良い一年であることを心よりお祈り致します。

心臓リハビリテーションについて



心臓リハビリテーション
担当理学療法士
岩尾 誠也

心臓リハビリテーション 開設から現在まで

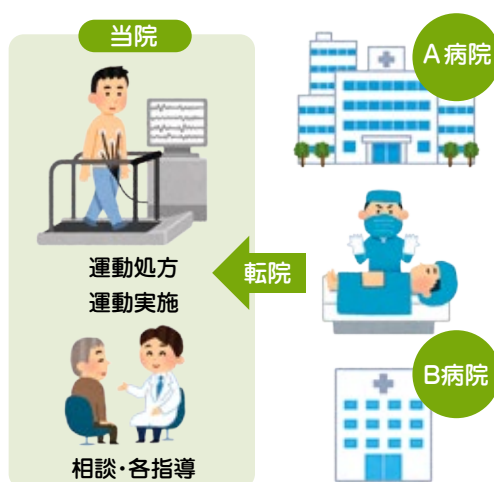
早いもので、昨年5月の開設より8ヶ月が経過しました。高齢の方は心臓の悪い方・弱くなっている方がとても多いという現状を目の当たりにしています。当院で心臓リハビリテーション（以下心リハ）を受けた方の年齢内訳では60代が20・7%、70歳以上が76%という現状です。現在100万人を超えるとされる心不全患者さんの内、団塊の世代の方々が今後さらにお歳を召されるにつれ、その罹患率は多大なものになっていくと言われています（心不全パンデミック）。当院でも少なからずその兆しはあるのではというのが率直なところ です。

当院での心リハ対象疾患 （他病院からも受け入れていきます）

- 第1位 心不全（急性・慢性）
- 第2位 急性心筋梗塞

第3位 急性大動脈解離

以下、弁形成術後・弓部大動脈置換術後・冠動脈バイパス術後となっています。当院では外科的治療は行っていませんので、他病院で手術を受け早期退院となった方が加療とリハビリ目的で転院し



多くの方が元の生活に戻れています！ （心リハの必要性）

心筋梗塞や外科的手術後は心臓の機能が低下します。また一時的に安静が必要になることで運動能力の低下も生じます。このような状態では退院後の生活は不安要素だらけです。よって、低下した

心臓機能や運動能力の回復・社会復帰をする上での不安要素の排除等、心身面で安全に安心して生活が送れるように心リハをすることになります。

当院でも多い心筋梗塞ですが、原因とされるのが心臓を包み込むように走っている冠動脈の病変です（硬化や石灰化）。再発させないためにはバランスの良い食事摂取や禁煙が大切になるとともに運動習慣をつけることが大事になります。心リハはこれらの総合マネジメントとして考えて頂ければその役割と必要性が見えてくるのではないのでしょうか。また心リハ実施者の在宅復帰率は82・8%であり、その必要性の高さが伺えます。

運動だけではなく 必要な部分に着目し対処する！

医師・看護師・薬剤師・栄養士・社会福祉士・理学療法士等それぞれが専門性に特化し、且つ患者さんの状態に合わせた総合マネジメントをしないといけません。例えば、「心筋梗塞を患った方で、脂身のお肉が大好きでタバコは1日20本吸います。血圧は160ありました」という方に、リハビリで全身運動をしっかりと行いましょう！では、心リハの効果としては残念な結果となってしまいます。心臓や血管に負担がかからない内容の食

事摂取（栄養指導）を行い、今後の悪化や再発を予防していくことが重要になってきます。合わせて心臓の回復状況を見ながら血圧コントロール下で運動を行い、徐々に動いても大丈夫な心臓機能に改善していくことが求められます。必ずしも、「心リハ運動」ということではありません。

現在は退院に合わせ個人ごとやご家族を含めて各専門職より退院後の生活注意点の指導を行っています。

今後もこの運びは継続しつつ、**より患者さんの身体状況にに応じた対応**に力を入れ、社会復帰後に安全に安心して生活が送れるように患者さんにあつた心リハを提供できるように努めていきたいと思



敗血症について



消化器内科医師
岡嶋 智也



敗血症という言葉聞いたことがあるでしょうか。なかなか聞き慣れない言葉だと思います。簡単に説明させていただくと感染症に起因したコントロール不能な臓器障害のことを指します。患者数は全世界で年間2700万人、そのうち800万人の方が命を落としている疾患です。原因は呼吸器感染症、腹部感染症、外傷、悪性腫瘍など例をあげると枚挙に暇がありません。

通常の感染症と異なる点は『コントロール不能な』という点です。通常、感染症というと細菌やウイルス感染のことを指し、それらは自然治癒もしくは的確な診断と適切な治療により治癒を得ることができるのですが、敗血症の場合、それらの治療を行ってもなお治癒を得ることが難しい場面があります。

ではその敗血症、体の中でどのようなことが起きているのでしょうか。人間の体の中では健康な状態を保つために様々な反応が起きます。これを難しい言葉でいうと生体防御反応といいます。それは外から入ってくる異物に対してそれらを察知し、捕捉して自身の体に有害な事象を起こさないように処理をする免疫システムと呼ばれるものの上で成り立っています。その免疫システムは絶えず我々の知らないところで、24時間不眠不休で体の中に異常がないか



と警備にあたってくれているのです。人間の体に微生物つまり細菌、ウイルス、真菌、寄生虫な

どが侵入してくると免疫システムが作動しそれらを排除するように働きます。具体的には白血球やマクロファージといった監視員がそれらを認識し処理しながらかつ応援を呼んでその微生物の排除に努めるわけです。その応援を呼ぶための伝達手段のことを総じてサイトカインと呼びます。そのサイトカインが放出されることで発熱や痛みなどの症状が出現し我々の体に警告灯を点灯させます。その警告灯が点灯した状態を端的に表現すると『炎症』といいます。炎症は体からそれらの微生物を排除するために起きている必然的な現象ともいえます。よって、侵入する微生物が体に強いダメージを与

えようとする場合、免疫システムはそれだけ強い炎症を引き起こすことになります。その強い炎症が引き起こされ過剰なサイトカインが血液の中に放出されることで微生物処理班の応援部隊が過剰に頑張ってしまう。それによつて血圧の低下、またはその血圧の低下による血流の障害が起きること肺、腎臓、肝臓といった多くの臓器にダメージを与えてしまうのです。もちろん、その応援部隊は悪気があつて体にダメージを与えるように仕向けるわけではなく、一生懸命によかれと思つてなんとか元の状態に維持しようとした結果、体にダメージを与えてしまうのです。悲運なことです。まとめると敗血症という疾患が起きる背景には外から入ってきた異物によるものだけでなく、異物を排除しようとして頑張りすぎた異物処理班もその原因となっていることがわかります。

その敗血症に対する治療は端的にいうと感染源のコントロールを根幹とし、全身管理をしながら傷んだ臓器の修復を待つというものになります。感染源のコントロールとは速やかに適切かつ適量の抗菌薬を投与し、かつ除去すべきあるいは除去可能な感染巣の存在があるならばそれを切除などによる侵襲的な治療を行うことを指します。また全身管理とは臓器の血流が悪くならないよう点滴をしてあげて、なおかつそれが過剰にならないように水分の出納管理を行うことや呼吸状態に問題があるのなら人工呼吸器の力を借りて肺を休ませてあげるといった治療を行うことを指します。

いずれにせよ敗血症は早期の治療介入が大切です。体の具合が悪いことに加えて、胸のドキドキや運動していないのに息切れをするような呼吸、そしていつもの精神状態と違うなどといった症状が現

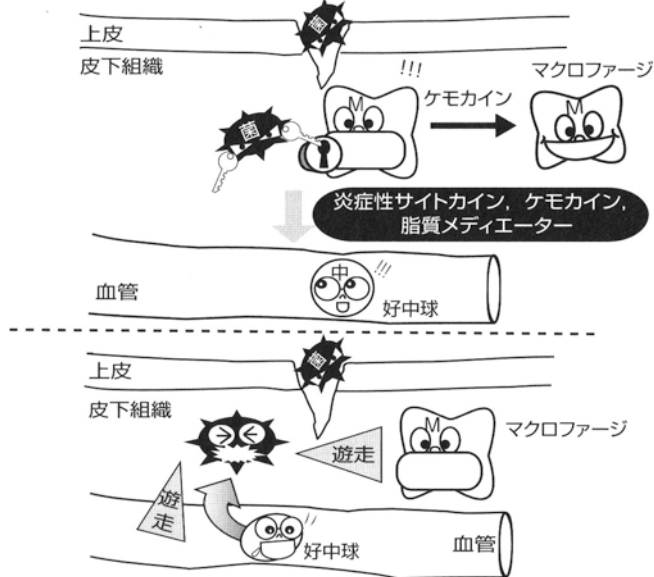
れている際は敗血症の可能性がります。そのときは症状を我慢せずに速やかに病院へ受診していただけるとよいかと思ひます。

最後になりますが、皆様の生活は健康な体の上で成り立っています。健康があつてこそ、小さな幸せも感じる事ができるとも言えます。その健康な体を、その大切な生活を支える

為に少しでもお

役に立てるよう懸命に治療にあたらせていただきたい所存です。のでどうぞ宜しくお願い致します。

図4 炎症性サイトカインや脂質メディエーターによる血管への働きかけ、また、ケモカインの作用で、好中球やマクロファージがよび寄せられる



リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分に参加して

2017年11月3日(金)・4日(土)、大分スポーツ公園 大芝生広場で、第10回リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分2017が開催されました。

このイベントが大分県で行われるようになってから10年目という節目の年でした。60チームの参加があり、当院からも子供を含め約60名が参加しました。今年は11月の開催で寒さの心配がありましたが、天候に恵まれ24時間無事にたすきをつなぐことができました。

会場では、日中は中央ステージでのイベント、乳癌検診、献血、参加チームに

よる企画の出店などがあり賑やかでした。夜中は様々なメッセージが書かれたルミナリエの光の中、多くの人々が歩いていました。実行委員の方々とハイタッチでゴールした時には達成感！

また、寄付金が癌研究や癌患者さん・ご家族に役立ち、少しでも苦痛が軽減されることを願います。

緩和ケア委員会 看護師 西浦 安子



糖尿病予防週間 栄養相談会

全国糖尿病週間(11月13日～19日)の期間中、14日(火)・15日(水)の2日間、病院1階ロビーにおいて、当院と大分県栄養士会の管理栄養士による栄養相談会を行いました。

外来患者さん、付き添いの方、お見舞いに来られた方々が相談に来られました。相談内容は、糖尿病、高血圧、術後食、バランスの良い食事等でした。

今年は相談者に高齢の方が多く、食事の内容が同じような物が多かったり好きな物に偏ったりすることで、野菜が不足したり塩分の摂り過ぎになったりしている方が多いようでした。

今回、私達栄養士は、簡単な調理法や長期保存ができる食材を使ってできる料理のアドバイスを行ったり、バランスランチョンマット等を使用して食事のバランスの取り方をお話したりしました。

糖尿病予防週間の栄養相談会は年に一度ですが、食事に関する心配事があれば、外来受診の際にお気軽に声をかけて下さい。待ち時間の間にお話をさせていただきます。

栄養課 管理栄養士
松本 菊乃



大分大学研修医の地域医療実習

大分大学医学部附属病院研修医2年目の濱中良丞です。生まれも育ちも大分市で、平成28年3月に大分大学医学部医学科を卒業しました。卒業後は大分大学医学部附属病院、大分市医師会立アルメイダ病院で研修を行いました。そして今回、地域医療実習として12月の1ヶ月間、宇佐高田医師会病院で研修させて頂きました。

研修中は外来診療、病棟業務、救急対応、内視鏡、心臓カテーテル検査、



手術、へき

地診療と幅

広く経験さ

せて頂きま

した。様々

な経験を通

じて医療に

おけるプラ

イマリ・ケ

アや宇佐高

田地域にお

ける地域

保健・医療の位置付けについて考えさ

せられました。また、疾患だけでなく、

地域の特性や心理社会的側面に配慮し

診療を行うことの重要性を改めて認識

しました。

最後になりますが、ご指導頂いた先

生方、温かく受け入れてくださったス

タッフの方々のおかげでとても楽しく

充実した1ヶ月でした。本当にありが

とうございました。



研修医2年次・濱中 良丞

研修期間・平成29年12月1日～12月29日

宇佐高田医師会病院 平成29年のトピックス

3月



新型インフルエンザ対応訓練

5月



一日看護体験

5月



看護の日コンサート

8月



供養盆踊り

7月



九州北部豪雨災害支援派遣

11月



リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分参加

12月



クリスマスパーティー

外来担当医師一覧表

時間帯	科 別	月	火	水	木	金	土
午 前	循 環 器	陣 林	篠 原	齋 藤 陣林(ペースメーカー)	—	陣 林	—
	外 科	庄 野	柏 木	蔵 田	江 上	柏 木	—
	消 化 器	石 田	中 島	岡 嶋	中 島	石 田	—
	呼 吸 器	—	望 月	本城(第2・第4)	望 月	—	—
午 後	循 環 器	—	—	—	近 藤 (心カテ検査)	—	—
	外 科	—	—	(乳腺検査)	—	—	—
	腎 臓 内 科	—	—	—	—	有馬(第1・第3)	—
	血 液 内 科	—	—	—	幸野(第3)	中山(第2・第4)	—

氏 名	専 門 領 域
陣林 伯男	循環器 内科一般
近藤 克洋(非常勤)	循環器科一般
篠原 徹二(非常勤)	循環器 内科一般
齋藤聖多郎(非常勤)	循環器 内科一般
石田 健朗	消化器科一般
岡嶋 智也	消化器科一般
中島 仁典(非常勤)	消化器 肝臓病 内科一般
有馬 誠(非常勤)	腎臓内科一般
中山 俊之(非常勤)	血液内科 内科一般
幸野 和洋(非常勤)	血液内科 内科一般

氏 名	専 門 領 域
柏木 孝仁	消化器外科 下肢静脈瘤 外科一般
庄野 正規	消化器外科 外科一般
江上 拓哉	消化器外科 外科一般
蔵田 伸明	消化器外科 外科一般
望月 淳	呼吸器内科 老年科
本城 心(非常勤)	呼吸器内科

呼吸器科



●外来受付時間

午前8:30～11:00 (午後の特殊外来は、午後3:00まで受付)
予約の患者様が優先になります。ただし、急患はこの限りではありません。
※当病院は、原則として紹介状が必要です。

●診療時間

午前9:00～12:00 / 午後1:00～4:00

●休診日

土曜日午後、日曜日、祝祭日、年末年始(12/30～1/3)

●予約受付時間

平日 午後2:00～5:00

編集後記

明けましておめでとうございます。
おかげさまで本誌ぬくもりは第50号の発行を迎えることができました。
もう初詣には出掛けられましたか。
今回の表紙は、過去に使わせて頂いた宇佐神宮の写真を集めてみました。
今後も地域の皆様へより良い情報を発信して参りたいと思います。本年も宜しくお願い致します。



ぬくもり No.50 2018年1月31日発行

宇佐高田医師会病院

〒872-0102 大分県宇佐市大字南宇佐635
TEL 0978-37-2300(代) FAX 0978-37-2307

ホームページ <http://www.utihp.jp/>

これまでの広報誌「ぬくもり」もホームページで閲覧できます。



- 地域医療支援病院
- (財)日本医療機能評価機構認定
(機能種別版評価項目3rdG:Ver.1.0)
- 第2次救急指定医療機関・災害拠点病院(大分DMAT指定病院)
- 僻地医療拠点病院・大分県HIV診療協力病院
- 第2種感染症指定医療機関(SARS初療機関)
- 大分県重症難病患者医療ネットワーク基幹協力病院
- 協力型臨床研修病院・循環器専門医研修関連施設
- NST稼働施設認定病院
- 日本消化管学会胃腸科指導施設
- 肝疾患診療協力医療機関